

ふれあいと語らいの同窓会



東実同窓会報

NO.5

発行 〒144 東京都大田区西蒲田8-18-1 TEL.03-3732-4481 東京実業高校同窓会編集委員会

きびしい時代を迎えて



同窓会々長 渡邊 和彦

ついこの間までの近年にない冷夏も去り、きびしい冬を迎えようとしています。

会員の皆様、御元気でお越しの事と存じあげます。

会報を発行するにあたり、紙上を借りまして日頃、皆様から寄せられております御支援と御協力に対しまして厚く御礼申し上げます。

お陰をもちまして、本会会員も約26,000人に達し母校創立70年の式典も盛大に行われました。そして本会の組織及び運営等も、前会長村松濱代氏によりほぼ完成され

今後はいかにより良き運営をしてゆくかの時代に向かっているとと思われます。しかし、異常の冷夏と景気の後退と重なり、きびしい時代に入ってきています。基金も公定歩合2%の時代果実も、いちじるしい減少と就学生徒数の減少と重なり、きびしい時代が長く続くであろうと思われます。何かと多難な時代ではありますが、会員各位の期待に少しでも応えるべく精一杯努力してまいりますので、再なる御支援と御協力を御願いたします。



▼平成5年度常任幹事



▲平成5年度会長・副会長・顧問・相談役

懐かしき人々

理事長 上野 雅子



昨年学校が70周年を祝いましたが、今年は私が50才を迎えた記念すべき年になりました。気がつかぬ間に半世紀という長い歳月が過ぎ、驚いて周りを見わたせば、懐かしい顔がいつか傍から消えていました。

50年も生きてきますと本当にその間お会いした人々の数は、一期一会の御縁を含めればそれなりの多さになります。そしてその中で気が合い、長いお付き合いをさせていただく人々は限られてくるわけですが、ここでは東実関係の懐かしい先生方を思い出してみたいと思います。

15期卒のクラスの方々は、父田健在の頃から同期会にはかならず2人を招待して下さり、2人亡き後は、私共夫婦を呼んで下さっておりますが、その時のお話には本当に懐かしい先生方のお名前がポンポン飛び出し、私も幼かった記憶を思い出して懐かしんでおります。60才以上の方はきっと覚えていらっしゃる事でしょう。宮野先生、粕谷先生、鷹野先生等もうすでにこの世にはいらっしゃらないわけですが、当時のユニークな教え方やその先生のくせなど、話を伺いますと今の教師のあり方の反省にもなり、いつも楽しませていただいております。宮野先生は、私の目には優しい目をなさっていつもニコニコしていらした晩年のお姿が浮かびませんが、お若い頃は颯爽となさった青年教師でいらした事でしょう。粕谷先生は、私の叔父にもあたる人で、私が知っている叔父はもう県会議員となって政治の世界に入っておりますので、いつも忙しそうに飛び廻っていて、赤ら顔ので

つぶりとった姿を思い浮かべます。その長男で私の従兄弟にあたる泰介も東実の教師となって教えておりましたが今は出版社の方に勤めております。彼にもめったに合う事が無くなりましたが、粕谷先生を御存知の方は、きっと昔の粕谷先生の姿を彼に見出す事でしょう。鷹野先生は、長い間東実に奉職しておられ、独特の雰囲気を出しておりました。私が大学を出て東実に勤めた時にもいらっやいましたので、よく覚えております。晩年の先生は、英語をNHKの放送で勉強なさり、交換留学生が来ると、水を得た魚のように彼らの会話に入ってゆき御自身の言いたい事だけを言って皆を煙にまいておりましたが、その熱心な勉強ぶりに、若い生徒達もこの位やってくれたらと思ったものでした。又、滝先生、井上先生もすでにこの世にはおられなくなりましたが、女子商業科卒の女生徒の皆様には、大変懐かしい、思い出のあるお名前の事と推察いたします。滝先生は80才を過ぎてもお元気でいらして、髪の毛も黒々としてとてもお若く見えたものでした。井上先生は、私を中学時代から知っておられ、いつ返も「雅子ちゃん、雅子ちゃん」と可愛がって下さいました。父亡き後、すぐに御自分も病いに倒れ、亡くなられる前は、父にとっても良く似てこられて不思議な御縁を感じたものです。

こうして昔を振り返り、懐かしむという事は取りも直さず自分がそれだけの年になったのだなとつくづく感じる今日この頃です。



総会風景

「同窓会」の意味

校長 上野 毅



「人」は国家を形成する。「人」の教育が国家の存亡に関わる。時代的イメージをもつ文ではあるが、世界の中での「日本」は、様々な意味で、世界の一員として、世界に貢献していく責任をもつ国家である。その「日本」が、揺れ動いている。内政面では、行政改革、汚職構造外交面では、貿易不均衡の是正、PKOの活動など。内に秘められ、暗黙の内に外へ出してはならない構造が、「人」によってあからさまになり、判断され、改革されるようになった。新しい時代に即した、新しい「人」が新しい価値基準で臨む社会になった。国家は全てのを吐き出し、何が正しいのかを模索しながら、「人」によって形成されていくものになった。

日本国家のみを論ずるのではなく、世界を考えなくてはならない我々教師の使命は正に、この「人」を「世界人」として育成することにある。新時代に生きる「世界人」とは、俯瞰的な立場で、ものを見、実践できる人である。東京実業高等学校の生徒が、このような時代に堂々とした態度で向かっていくためには、一地域の事柄に終始するような思考回路ではなく、全体における視野を持つことができるようにならなければいけない。新渡部稲造曰く「我、太平洋のかけ橋とならん」と。坂本竜馬曰く「世界に向けて船出しなければ、日本は滅亡すると」時代の変革期には、危機感がつきまとい、「人」を広い視野へと導いていく。しかし、一個人の力がなせる思考ではなく、様々な人間の関わりから生まれてくる視野である。したがって、教員の力だけではなく、実際の「社

会」を認識させることができる「同窓生」の力もまた重要な要素になっていくのである。

同窓生は、すでに26,000名余をかぞえる。その人数が我が校に注目するということは、大変な力になる。卒業生が、専門分野で業績を残したことが新聞などで報道された時、在校生はどのくらい勇気をもてるだろうか。故河井信太郎氏（昭和8年3月卒業）は鬼検事（実際は罪を憎み、人を愛した）として、ロッキード事件を担当した。杉山保三・野村勝一両氏（15期卒業生）は同級生（悪友・朋友？）として東実を学舎に、互いの人格を磨きあっていた。そして、杉山保三氏は弁護士として正義を貫き、野村勝一氏は市民の生活を守る公認会計士として道を極めた。現在は、自分の仕事と共に東実の後ろ盾として協力をいただいている。このように社会で立派に仕事を続けている人は、他にも多くいらっしゃると思う。そう考えると、我々も、生徒も、東実という一本の線で結ばれていることになにか生きていく上で勇気を持つことができる。「決して一人の人生ではない。僕の背後には多くの方の歴史が刻まれている」と。

目に見えぬ歴史の糸を上手にたぐり寄せて先輩は後輩を導いていくことができたならば同窓会を通して、すばらしい学校ができあがるのではないだろうか。同窓会という大きな組織に一つのくさびを打ち込むことによってその意味が明確になるのではないだろうか。そういう意味で、同窓会は、後輩に対してなにかしら積極的な働きかけをしてほしいと願っている。



総会風景

職業教育雑感

副校長 嘉戸 直民



本校の歴史も職業教育を中心に70年余を重ねてまいりました。しかし昨今、高学歴志向の社会的風潮による普通科への偏重傾向のなかで、社会人や職業人になるための職業教育に種々な問題点を痛感するところであります。

職業科に入学する生徒が多様になってきていることに対しては、一方において職業教育への意欲や目的意識をもつ生徒を一人でも多く入学させるための方策を講ずることが必要となってきます。また、多様な生徒の実態に応じて、できるだけ個々の生徒の能力・適性・興味・関心・進路等に即した教育が実施できるよう、工夫していかなければなりません。

現在本校では、受験生およびその父母を対象として学校見学会を開催していきます。この見学会に参加し、本校の教育目標・教育内容等を理解した意欲的かつ積極的な生徒に入学してもらいたいと願っています。そして、入学してきた生徒が本校に魅力を感じ、学習等に興味関心を持つとともに、将来に明るい展望を持つことのできる学校づくりに努めることが学校活性化にとって有効な方策であるかと思われます。

職業教育において、職業資格取得を考慮する必要性は従来にも増して多く生じてくるでしょう。職業科に在籍する生徒が各種の職業資格や技能技術検定を目指すこと

は、目的意識を持った意欲的な学習活動を促すことにもつながるのです。また、生徒の中には目的意識もなく学習意欲の低い者がみられることがありますが、それらの生徒に具体的な学習目標を持たせるためにも資格取得を奨励することは望ましいことと考えられます。しかしながら、資格の取得が第一の目的となり、それを最優先に行なわれることのないように留意しなければならない必要があります。

一方、産業界に目を転ずると、現代は急速な技術革新に伴い、技術の高速化・情報化が進んでおります。このような時代の変化の中で、職業高校における実践的技術者の育成は産業界と切り離れたところでは考えることはできません。産業界のニーズに対応するためには、外部の教育力を導入する必要があります。従来の教育システムという枠を越えて、産業界からの専門家を「社会人講師」として招致し、専門家と教師、そして生徒が一体となって先端技術や実社会について学習する機会が必要なのであります。

生徒が職業人としての心構えを学び、高校生活をより充実させるためにも同窓生諸兄が社会人講師として母校の活性化にご協力くださることを切望いたします。

◆続けるための作述

編集委員会の将来

編集委員長

第22期卒 井上 實



同窓会員中より、選択された7名のメンバーにより、毎年発行の会報及び5年1回の名簿を編集創作している事にあります。

このたび常任委員会の決議により委員会の中から責任ある長を選択することを認められ、また学校側からも強力な委員細井先生(53期卒)を推薦され今後とも期待に応えられる委員会としての運営が充実されてきた。

ここに委員長の命を受け、今まで以上に責任を感じてはいるものの、諸氏の協力なくては全うできない。

この機会を十分に理解いただき今後にも続く若い編集者が育つよう、より良い内容と見て楽しめる会報を創造してゆく覚悟であります。

次の若い編集長が出てくる事を楽しみにツナギ役として勤めさせていただきます。

老人を労わろう

第17期卒 顧問

村松 濱代



東実を卒業して52年の年月が何時の間にか過ぎてしまいました。若い頃は年寄りの方を見ても何とも感じはなく、ただご年輩の人だなと思っただけでしたが、現実自分がその年寄りの部類に入ると実に侘びしさを感じるものです。私の場合も物忘れが多くなり、日誌を書くのに昨日の事を思い出すのが大変です、ましてや一週間の予定に至っては手帳を見なければ記憶外のことで、朝会社に出掛ける時に必ず手帳を見なければ、その日の予定がわかりません。特に人の名前が思い出せずお話しをしているながら、この人の名前は何と言う方だったかと思案することが多々あります。昨今は会社の名称や、物の名称、外国の地名、芸能人の名前、頭文字をとった名称など国際化につれ「カタカナ」の表示が大変多く用いられ、この「カタカナ」の名称が一番の苦手です。忘れないように何度か自分に言いかせるのですがすぐ忘れてしまいます。

私はどちらかと申しますと、字を書くのが好きな方で、習字として習ったことはありませんが、若い頃から毛筆で字を書くのが好きで、ラブレターなどは巻書に毛筆で認め、愛を打ち明けたものでした、又年賀状は必ず毛筆で一枚一枚、差し出す相手によって文章を変えて出したものです。ところが3年程前から、右手が痺れ、親指と人差指の力が入らなくなり、その上右手が震えるようになり字が満足に書けなくなりました。人の紹介で慈恵医大のその道の大家の先生に診て頂きましたところ、脊髄の何番目かの骨が変形して腕の神経を押えているのが原因だと言われました。これという治療の方法が無く自分では老人病と決めて、そのまま現在に至っております。年を取ったら好きなゴルフ三昧をと、考えていたのですが世の中思うようにいかないものです。と言ってゴルフができない訳ではありませんが、右指に力が入らないので狙ったところにボールが行ってくれないので、スコアが経らず、自分が惨めてゴルフに興味が無くなってしまいました。ゴルフ友達は、もう年なんだからスコアにとらわれず、健康の為にコースに出た方が良く奨めるのですが、負けずぎらいの私にはどうしてもゴルフをやる気がなくなってしまいました。

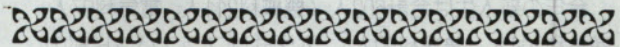
趣味と健康の為に日本舞踊を三十数年習っておりますが、これもお扇子の扇返しに指に力が入らないので、扇



返しをしようとするとう扇子が手元から落ちてしまいますので、扇子をつかうお踊ができなくなり、もつぱら扇子の仕種のないものを習っています。来年の七月に国立劇場で舞踊の会があり、只今稽古中ですが、胡座をかりたり座るところに片膝を立てる仕種に振り付けを変えてもらい、膝に負担のかからないようにしてもらっております。師匠も私より四つ年上なので、自分でも膝には相当に気をつけておるようです。その他でも外見では健康そうに見えますが年輩になると色々支障が起っているものです。

近頃は電車に乗ると空いた座席を探すようになりました、特にシルバーシートに目をやりますと、殆んど若い人が座席を占めており、中にはシルバーシートと知りながら狸寝りをしている人がおります、私はブリたがるせいか空いていてもシルバーシートに座ったことが殆んどありません。

昨今は他人に対しその「思いやりの精神」が総の面で欠けているように感じられます。特に健康な人は、身障者、老人に対して何時かは自分も老人になるのだ、又何かの不遇な出来ごとで身障者にならないとは断言できません、特に東実の卒業生は「ひめじょおん」の学訓に従って「老人をいたわる気持」を常に持って、世の中を明るくするようにしてもらいたいものと思います。



知っ得コーナー

* 結婚記念年表 *

1年 紙婚式	20年 陶婚式
2年 わら婚式	25年 銀婚式
3年 糖菓婚式	30年 真珠婚式
4年 皮婚式	35年 さんご婚式
5年 木婚式	40年 エメラルド婚式
7年 花婚式	45年 ルビー婚式
10年 すず婚式	50年 金婚式
12年 亜麻婚式	60年 ダイヤモンド婚式
15年 水晶婚式	

学校からのたより

東実この1年

— 入学式・文化祭・ クラブ活動報告 —



校内幹事 細井 守英

今年もまた、同窓会の皆さんに学校内の様々な動きをお知らせする頃となった。平成5年度も実に多くの「活躍」があり、「実績」を積み上げている。みなさんの学生時代の延長上にある「実績」です。それらをご承知いただき、確かな母校の発展と、ご自身の学生生活を懐かしんでいただきたい。

平成5年度602名の入学式

平成5年4月10日(土)、上空の空は見事なまでの快晴、そしてテニスコートでは多くの新入生が受け付けを待っている光景が見られた。

それに先立つ2月18日(木)、平成5年度入学試験のこの日、東京実業高校で受験した生徒は合計1,921名にのぼった。それにしても、ここ数年の受験者増加傾向は本校生徒および26,000人を超す卒業生、つまりは同窓会会員の方々の活躍に他ならないと思われる。要するに現在の東実の発展は東実生および東実卒業生自身から生じているものなのである。そして今、その活躍に向かう新入生が新たな生活の始まり、つまり入学式の開始を待っているのである。

今年の新入生は合計602人(機械科211人、電気科97人、商業科204人、普通科90人)。入学式はプラスバンド部の演奏する国歌・校歌斉唱で始まった。まず、上野毅校長先生から新入生への挨拶は本校の校訓「不撓不屈」についての説明。とてもわかりやすい説明で、きっと新入生



▲ 新入生代表の宣誓をする
塚越裕之(普通科)君

も十分に東実精神を理解できただろうと思われた。式は途中、生徒会会長の言葉・新入生代表の宣誓などを経て1時間半ほどで終了。新入生たちは各担任の先生に誘導されて各自の教室に向かった。

教室ではホームルームが行なわれ、これによって、新入生たちは正式に東京実業高校生の一員となった。前にも記したように、東実の「伝統」を継承する頼もしい602名の新しい戦士が、ここに誕生した。

8名の“民間外交” 来日

昭和42(1967)年以来、太平洋を越えた民間外交として大きな意義を持ってきた東実交換留学生制度も今年で26年目。今年アメリカ・ボルダー地区から14回目の交換留学生としてセブ・オーバーマイヤー先生を引率とする合計8名の生徒を迎えた。

一行は6月19日に来日、長旅の疲れが心配される21日(月)の1時限に臨時朝礼が行なわれ、8名の留学生たちは一生懸命に覚えた日本語で本校生徒に挨拶した。「覚えた」といっても上手に言えなかった人もいたが、中には東実生も顔負けの日本語で挨拶する者がいて、聞いている生徒たちからも大きな拍手や歓声がかけていた。

ほとんどの生徒にとってはこの日初めて会う人々である。しかし放課後に催された「ウエルカム・パーティー(生徒会主催)」では、お互いがお互いの中に入りこみ、もう既に「初対面」であることなど考えることもできないほどであった。これこそ若者の特権であり、高校生活の時代に日米の異なる文化に触れることによってお互いを学び、理解するという東実の交換留学制度の大きな特徴が見られるところである。



▲ ウエルカムパーティー

今年来日したのは、ジェシカ・ピアーズさん、ジョー・ビダール君、ジョナサン・クーパー君、シェーン・フオッダ君、リー・ビヒル君、スコット・ラム君、ジェリニ・コーチェンさん、ジェシカ・ディバードさんの8名とオーバーマイヤー先生夫妻の合計10名。本校の教員や生徒たちの自宅にそれぞれ2~3泊ずつホームステイ

をして、より深い交流を確かめる。日程の中には、京都・奈良という「日本」を実際に触れてもらうプランや、富士登山や伊豆箱根旅行なども組み込まれていた。そしてディズニーランドへも出かけた。そのほとんどには本校の生徒が一緒である。

今回、来日した生徒諸君も、広い意味で「日本」に触れ、「日本」を実際に学び、そして何より多くの東実生との出会いによって、生きた日本との《真の交流》を果たしたに違いない。そして本校生徒にとっても、生きたアメリカの一端を肌で感じたに違いない。今年もまた、この制度が大きな意義を持った。

なお平成6年度は東実の生徒が渡米するわけだが、引率として中野義久先生が決定している。



▲ 全員そろっての記念撮影

「競技と応援」— 体育祭 —

9月下旬から天候不順が続いた。そして見事に晴れ渡った10月2日、品川区の大井陸上競技場において体育祭が実施された。今年も生徒会が、その準備・運営にあたった。当日が土曜日とあって、スタンドに設けられた観客席は朝早くから既にいっぱいである。〈Fight it out! (最後までたたかえ)〉を大きなスローガンとした体育祭だけに、各生徒が最後まで諦めずに一生懸命に競技に参加する姿が見られた。



▲ 組体操（1年生）の一時

今年は13の競技が設定された（別記参照）。「豚の丸焼き」とは4人が2本の棒を持ち、1人がそれにぶらさがりながら走るという5人1組のリレーである。これは5月の鍛練旅行で行なわれた小運動会での競技であり、それが体育祭に取り入れられたのも生徒会主催であるところが大きいだろう。

当日も午後となると学校を終えた中学生なども多く姿を見せるようになり、観客スタンドは収容人数を越す賑わいとなった。そんな中で我が体育祭の名物、「応援合戦」が開始された。全体を6つの色隊に分け、それぞれが応援団長・応援団員をはじめとして、各応援を繰り広げていく。この時のために各団員は連日夜まで残って案を練り、企画を重ね、衣装を整え、とにかくすべての準備をしてきた。何回か行なわれた各隊全体練習の時などは応援団長の声も濁れてしまって、体育祭当日の本番はどうなるのだろうかと心配されたほどだった。合戦は紫組（普通科）と緑組（商業科A～C）が接戦となったが、結局、紫組が優勝の栄誉に輝いた。

体育祭も終わり近くなると、〈これが青春だ（4×100mリレー）決勝〉、〈色別リレー〉など全体優勝に大きな影響を与える種目が続く。自ずとトラックを囲む各生徒から発せられる声援は勢いを増し、それに負けじと応援団員の声も最大になる。まさに競技場全体の雰囲気は最好調に達した。

すべての競技が終了し総合優勝の結果が発表される。今年の総合優勝は黄色組（商業科D～E）だった。午前中からの各競技で安定した成績を積み重ねたことが、後半、他の隊の追撃を離れたことになる。なお2位は白組（機械科A～C）と緑組の2隊となった。

やや余談だが、総合成績の上位2隊が正面スタンド席が確保される。今回は3隊になった。さては来年度体育祭、スタンド席はどうなっているのか。

当日のプログラム

- 開会式
1. これが青春だ（予選）
 2. 豚の丸焼き（1年生）
 3. 1500m競争
 4. 騎馬リレー（2年生）
 5. 組体操（1年生）
- 昼 食
- バンド演奏
6. クラブ行進、対抗リレー
 7. 応援合戦
 8. 走れメロス
 9. 組立体操（2年生）
 10. 帽子取りゲーム（3年生）
 11. これが青春だ（決勝）
 12. 色別リレー
- 閉会式



▲「Fight it oof」(最後まで闘え!)

東実祭—3000人との「ふれあい」

体育祭が終わると、忙しい学校行事が続く。10月中旬には中間試験。これも各生徒にとってはがんばらなければならない大きな試験。そしてホッとする間もなく今度は11月1～3日に行なわれる東実祭の本格的な準備にとりかかる。生徒会と文化祭実行委員会が、その中心的運営にあたる。特に1週間前ともなると、夜7時を越す時間まで各参加団体の準備が見られるようになった。その様子は東実生の、ひとつの事に取り組む姿勢がいかに真剣であるか、その成功にむけてクラス(クラブ)がいかに一致団結しているかを証明する姿であったように思われる。

テーマは「ふれあい」。しっかりと決まっている。準備は万全。そんな中、初日の11月1日を迎えた。この日は記念式典において本校の永年勤続教職員が上野校長先生から表彰された(勤続30年・佐藤節夫先生。米田仁昌先生。勤続20年・鈴木政広先生。河野年光先生。勤続10年・岩田孝文先生。横田正明先生。須藤武吉先生。細島博元先生)。記念式典終了後、第4回を数えた「弁論大会」が実施された。これも着実に東実祭のイベントになりつつある。

2日午後からは、一般の人々にも公開され、いよいよ本格的な東実祭が始まった。今年も「英語スピーチコンテスト」や「イブニングフェスティバル」などの様々なメニューに加えて、イベント広場では「カラオケ大会」「Mrレディー大会」「二人羽織り」「アームレスリング大会」等々、多くのイベントがあり、多くの観客の盛り上がりを見せていた。

この日に学校を訪れる卒業生も多い。既に本校生徒の父父となっている方、何年かぶりでも母校を訪れた方、毎年姿を見せる方、中には「今度、この人と結婚するんです」とうれしい知らせを持ってきてくれる人もいた。職員室にも「こんにちは先生。私のこと、まだ覚えてますか?」と言う声が聞かれ、「オー」という先生の懐か

しそうな、そして嬉しそうな顔も見られていた。丁度1年に1回の東実祭には、こんな面もある。中の翌日2日間にわたって一般公開で今年の東実祭と「ふれあい」を持った人は、3,000人に及んだ。昨年に比べれば、その数は減少しているが、それにしてもその数は大変な数である。実行委員は合宿をも含めた準備に余念がなかった。それが多くの成果に結びついた。

これを読んでおられる同窓会の皆様の中にも東実祭での「ふれあい」をもたれた方がおられるだろう。詳細部分には、まだまだ反省点が見られた今年度の東実祭であったかもしれない。しかし、「ふれあい」を持っていただけの方には平成5年現在、我が東京実業で各自が精一杯の生活をし、精一杯の努力を重ねて高校生活を送っている後輩たちの《息》を感じとっていただけたはずであると確信している。



▲ 東実祭の盛り上がりも最高潮

生徒会役員選挙—平成6年度の“顔”

以上、体育祭、東実祭の概要を記述してきたが、その中で大きな役割りを果たしている生徒会の平成6年度新役員を選ぶ選挙が11月17日(水)に行なわれた。選挙に先立って各候補者は体育館で生徒全員(有権者?)に向けての立ち合い演説を行なう。今年は会長候補6人、書記候補4人、会計候補2人の合計12人がそれぞれ推薦者とともに自己の考えるところをしっかりと述べていく。

3年生にとっては、卒業後の生徒会役員であり、母校の今後を期待する旨はあるが、直接的な影響のある選挙ではない。しかし各候補者の演説や推薦者の応援などに拍手や歓声の声がかかるなど、厳正な中にも盛り上がりを感じさせた。

選挙の所要時間は各学年45分だが、例年はその時間を超えてしまっていた。しかし今年は予定された時間どおりに進行した。そして投票。開票の結果、平成6年度の生徒会役員には、会長・林大輔君(C2D)、副会長・塚原俊一君(C2B)・横山崇君(C1B)・書記・宮崎康弘君(M1C)・会計・島田耕嗣君(C1C)が選出された。

林君の会長選出は2年連続である。これは本校でも初めてのことであるらしい。既に1年間の会長経験を経ている林君だが、新しいスタッフを迎えて、今までの経験に加えて新しい〈生徒会〉の活動を続けていってほしいと思う。それが東実の72年という伝統の上につながる実績になっていくはずであろう。

クラブ活動

レスリング部 今年も各試合等での健闘が光った。殊に10月末に徳島県で行なわれた第48回国体では4人が参加、その中で星野勇二君(M3D)と久保田晋司君(M3C)がともに第3位の栄誉を獲得した。なお、星野君は全日本派遣メンバー東京代表の一員としてアメリカ遠征にも参加した。

柔道部 今年も東京都学年別柔道大会団体戦では東京都ベスト8という見事な成果をあげた。また、東京都高校柔道選手権大会においても個人戦で天瀬竜也君(M3C)がベスト16を獲得、団体戦でも参加校179中ベスト16という成果をあげている。

テニス部 今年4月に行なわれた東京都春季大会では、団体戦で東京都ベスト6となった。また個人戦でも吉田・太田組(3年生)が5回戦に進出する活躍を見せている一方で、新人戦でも城南地区新人団体戦においては準優勝を獲得している。

サッカー部 東京都総体の支部大会において1回戦を雪谷高校に勝ち、2回戦では北高校に5-0と圧勝。しかしブロック決勝となる3回戦では都立城北高校に1-0と惜敗。すでに勝利に向かって部員たちの練習が開始されている。

陸上部 大田区陸上競技大会で走幅跳・砲丸投で第3位、1500mでは第2位を獲得した。また第1支部大会では走高跳の宮内武利君(M3A)と800mの木皿正博君(M2A)がともに優勝を飾り、5000mでは久保正憲君(C3E)が第2位、走幅跳で鈴木友和君(C3C)が第3位を獲得するなど、多くの種目で上位にランキングしている。

剣道部 全国高校剣道大会の東京都大会で5回戦まで勝ち進み、6回戦で惜しくも国学院久我山高校に敗退してしまっただが、東京都ベスト16の成果を修めた。

ブラスバンド部 今年も学校内外において、数々の活動を行なった。なお、そして一年の総括としてマーチングバンド全国大会を求めて東京都大会・関東大会と勝ち進み、今年度も全国大会への出場権を獲得した。今年のメインは「タンホイザー序曲」。これで全国大会出場

5回連続県回

(1月22日、日本武道館)は10年連続となる。

更なる飛躍のために

生徒会々長 林 大輔



この1年間、生徒会会長として様々なことに対して取り組み、努力してきました。その中には努力の甲斐あって成功したものと、思わぬ失敗をしてしまったものと、いくつかの繰り返しがありました。しかし、それらは自分自身にとって、大きなプラスになったように思います。

今年度、4月の新入生歓迎会から始まり、リーダー研修会、そして2学期になっては体育祭や東実祭という忙しい行事が続きました。これらの行事を先輩方のアドバイスを受けながら、また生徒会役員のみなどと協力し、成功と失敗を繰り返しながら行なってきました。そして9月30日には遠くアフリカ、ジンバブエから有名なアーティストであるムジュールさんたちを迎えて民族音楽を実際に聞くことができました。更に日比谷公園でのコンサートにも招待され、深くムジュールさんたちに親しむことができました。この模様はテレビでも紹介されたので、ご覧になられた方もいらっしゃると思います。

このような校内での多くの行事や校外での交流は私たちにあって大きな自信につながりました。そして全校生徒のみなさんにとっては楽しい思い出につながってくれたと思います。

3年生の皆さんは3月に卒業されていきます。そして平成6年度は私たちが中心となって東実を発展させたいと思います。先日の平成6年度生徒会役員選挙で、私は会長に選出されました。2年連続というのは東実の歴史上で初めてのことでと聞きました。大変名誉なことだと思います。1年間の経験を十分に生かし、失敗を繰り返すことなく、更に飛躍していきたいと思っています。そして全校生徒のみなさんや、同窓会のみなさんに満足していただけるような学校にしていきたいと考えています。もちろん生徒会役員をはじめとする全校生徒のみなさんの協力の上で成功することですけど、同窓会のみなさんの応援もよろしくお願いいたします。

第11回懇親旅行記

平成5年9月4日(土)～5日(日)

越後湯沢：NASPAニューオオタニにて一泊

黒田副会長の紹介により、本年度はバス旅行となった。夜明けまで台風に脅かされ、実行しようか否かを決めるのに幹事は悩みつづけた。

朝の学校集合も2～3名の遅刻者がいたが、全員揃い副校長の見送るバスで9時半出発した。

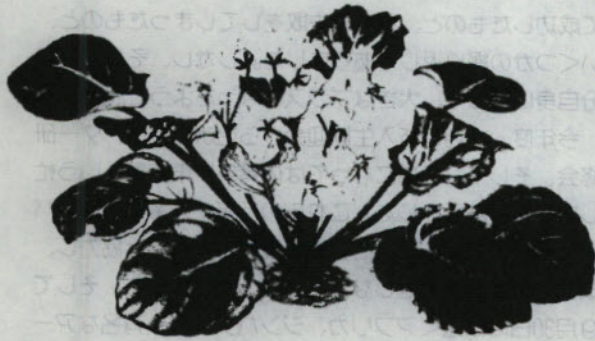
高速道路も天候の状況が、わり合いと空いており順調早目にホテルに着く。

第16期卒業生から第44期までの諸氏は、年令を忘れて楽しい旅行であった。

来年は臼田氏に旅行計画を依頼した。

以下詳しく催しもの内容と写真をお見せする。

(幹事一同)



懇親旅行参加者

(卒業年)	(氏名)	(卒業年)	(氏名)
16.3	青木 茂夫	37.3	岩永 通子
〃	和田 邦宣	〃	小宮山きよ美
16.12	村松 濱代	〃	斉藤 君子
〃	高橋 武三	〃	林 京子
17.12	佐々木 努	〃	渡辺 正信
〃	宮田 昇	39.3	黒田 芳彦
〃	畑山 誠	〃	熊田 士郎
〃	中島 貢一	〃	多田 和人
21.3	井上 実	42.3	臼田 佳彦
〃	遠藤 孝一	〃	瀬川 千寿
25.3	吉村 和重	44.3	南 俊和
27.3	渡辺 和彦		
29.3	箕輪 弘数		(学校関係)
31.3	松下 光夫		理事長 上野 雅子
32.3	井上 美智子		学校長 上野 毅
〃	江連 勝子		校内幹事 小島 浩
〃	長門 容子		〃 大久保 幸子
〃	松田 圭子		事務局 米田 仁昌
34.3	加藤 悦子		
〃	永田 美雅子		女性 14名
〃	本田 位公子		男性 24名
〃	渡辺 和子		合計 38名



旅行日程表

9月4日

学校に集合 AM 8:30

出発

9:00

環状七号経由

練馬インター

関越自動車道

三芳P.A

休11:20~11:30

NASP

ニューオータニ(泊)

13:40

越後湯沢インター

赤城高原S.A

16:00

13:30

休12:30~12:40

湯沢高原

14:00

ロープウェイにて頂上 休(オプション)

9月5日

出発 AM 9:00

ホテル

9:00

越後湯沢インター

9:10

関越自動車道

沼田インター

9:50

120号線

吹割の滝

休10:30~11:15

イロハ坂

中禅寺湖

戦場ヶ原

休12:15~12:45

日光宇都宮道路

宇都宮

大谷P.A

休14:15~14:30

浦和インター

蓮田S.A

休15:30~15:45

首都高速

レインポブリッジ

学校

17:00~17:30



お座敷ゴルフ大会

酒宴の最中、用紙に絵がかれた「トージツ・フェニックスゴルフコース」なるものが宴席の中央に敷かれ、ゴルフボールに変わるレモンにてティーショットを開始した。

雅子理事長が出ないと思われていた“ホールインワン”を出しアンダー5点を取り賑やかに幕が閉じられた。

以下成績表を公開する。

組	氏名	個人点数			合計点数		順位
		プレオフ	個人戦				
1	上野(雅)	-2	-1	-5	-4	±0	2
	上野(毅)	-1	+1				
	村松	-1	±0				
	渡辺(和彦)	±0	±0				
2	小宮山	±0			+4		9
	井上(美)	+0					
	下松	±2					
	小島	+2					
3	畑山	+1			+3		8
	白田	+1					
	斉藤	+1					
	黒田	±0					
4	和田	-1			-2		4
	眞輪	-1					
	井上(美)	±0					
	加藤	±0					
5	瀬川	±0			±0		5
	熊田	-2					
	青木	-1					
	大久保	+2					
6	多田	±2			+4		9
	吉村	±0					
	南	+2					
	渡辺(和子)	±0					
7	本田	-1			-5		11
	米田	±0					
	長門	-3					
	渡辺(正)	-1					
8	松田	+2			+1		6
	江連	-1					
	佐々木	±0					
	永田	±0					
9	中島	-2	±0	-1	-4	-1	3
	高橋	-1	-1				
	岩永	-1	-2				
	高橋(2)	±0	+2				
10	遠藤	-1			+1		7
	宮田	+2					
	林	±0					
	遠藤(2)	±0					

尚、1組と9組同点のためプレオフの結果、2位は9組。

個人戦は長門さんが3で優勝、2位雅子理事長と中島さんプレオフの結果、ホールインワンで雅子理事長の2位、中島さん3位となりました。

次回をお楽しみに……



スイミング

ホテル内のプールで3人の美女と狼1人が、肥満の肉体を披露していた。だが、さすが林女史は水泳のカウンセラーらしくすばらしいフォームで、水を切っていた。和服姿の彼女も水着姿もビビッドで、一見に価する。



ロープウェイ

湯沢高山植物園アルプの里へ見物しようと14人程のグループはホテルを出かけたが台風の後で山頂は風が強く運休だった。ガッカリした一行はせめて話の種にとその世界最大166人乗りの空の箱を見るそれをささえるロープの太さに感心しながら、うらめしく見物をし乗ったつもりで……。ちなみにロープウェイの料金大人往復1,200円と書いてあった。

湯沢の郷はスキーの街である為季節はずれはとても静かで、しかも台風の後と重なってまるでその日はゴーストタウンといっても過言ではない程でした、通りには人もちらほら、土産店もほとんど閉まっている。駅に戻る途中にもう一つの穴場はそば屋、この「しんばし」

という店、宮様も立ち寄って食べたというそばのおいしい店とか、とにかく一行はそこで一休みとなった。このそばはつなぎに海草を使っているとのことで、へぎそばを注文(村松顧問の振る舞いでへぎとは垣根ということらしい、その入れ物(器)なのだかへりの高い小さい角型のお盆のような器にそばがうねりの様にきれいに盛りつけてあり味は上々、そば湯も全員がお変りをした程でとてもおいしかった、満腹、満足。店を出て静かな街並をそろそろと途中開けてある土産店をのぞきながら駅に戻ると丁度後発組の新幹線でかけつけた雅子理事長、毅校長先生、松下副会長にばったり出くわし、まるで皆んなで出向えた様なノとばかり又々にぎやかに盛り上がりホテルへと急いだ、いつの時にもぎやかに和気相々と出来るのが東実同窓会のよき伝統で気軽に参加され楽しんでいただけたらと願っております。

❖❖❖ 二 次 会 ❖❖❖

およそ3分の2の人達が集まっていた様である。特に女性群の勢いは凄まじいものがあった。二日酔いになったカワユイ女性がい顔を一層丸くしてダンスに酔っていた。カラオケも校長を始め、44期の南氏も上手下手は関係なく楽しんでたものだ。



❖❖❖ 帰りのコース ❖❖❖

帰りのバスは吹割の滝で降り記念写真のシャッターを他人にゆだねる。

登りの階段で青木氏、本田氏ダウンする。

イロハ坂をゆつくりと下り、戦場ヶ原と大谷で休憩、井上おいてけぼりを食いそうになる。

バスの中は後部宴席テーブルではカラオケが賑やか、寝る人も寝られず。

全員無事に午後5時半学校に到着。

それぞれ重いお土産を持ち開散する。

台掌。



会 火 二

平成5年度東京実業高等学校同窓会総会の報告

本年度の総会は、6月27日(日)午後3時より母校小ホールにて106名の同窓生と学校関係者11名を含む合計117名にて盛大に行われました。

同窓会長以下役員24名の協力にて、次の議事を進行いたしました。

定刻、司会本田副会長より開会を宣し、私、黒田の開会の辞、引き続き恒例により、議長に渡辺会長を、議事録署名人に17期卒の六部氏を選び議事に入った。

①平成4年度事業報告を米田事務局より報告、続いて②平成4年度収支報告を本間会計より報告があり③会計監査人の都合により小島校内幹事長より監査報告があり出席者一同、満場一致で可決した。続いて④平成5年度事業予定を米田事務局より発表があり可決され、⑤議案の平成5年度の予算審議に入

本年度の総会は、6月27日(日)午後3時より母校小ホールにて106名の同窓生と学校関係者11名を含む合計117名にて盛大に行われました。

同窓会長以下役員24名の協力にて、次の議事を進行いたしました。

定刻、司会本田副会長より開会を宣し、私、黒田の開会の辞、引き続き恒例により、議長に渡辺会長を、議事録署名人に17期卒の六部氏を選び議事に入った。

①平成4年度事業報告を米田事務局より報告、続いて②平成4年度収支報告を本間会計より報告があり③会計監査人の都合により小島校内幹事長より監査報告があり出席者一同、満場一致で可決した。続いて④平成5年度事業予定を米田事務局より発表があり可決され、⑤議案の平成5年度の予算審議に入



図内案室煉

第39期卒 黒田 芳彦



た。原案通り満場一致で承認可決された。◎その他の議案では特に取り上げる議案もなく渡辺議長は議事終了を宣し、臼田副会長の閉会の辞で平成5年定期総会は午後4時30分無事終了しました。

本年度の総会は、渡辺和彦新会長のリーダーシップのもと大変年令層の幅広い会員が集まり、記念写真撮影等総会開始よりなごやかな雰囲気を感じられました。

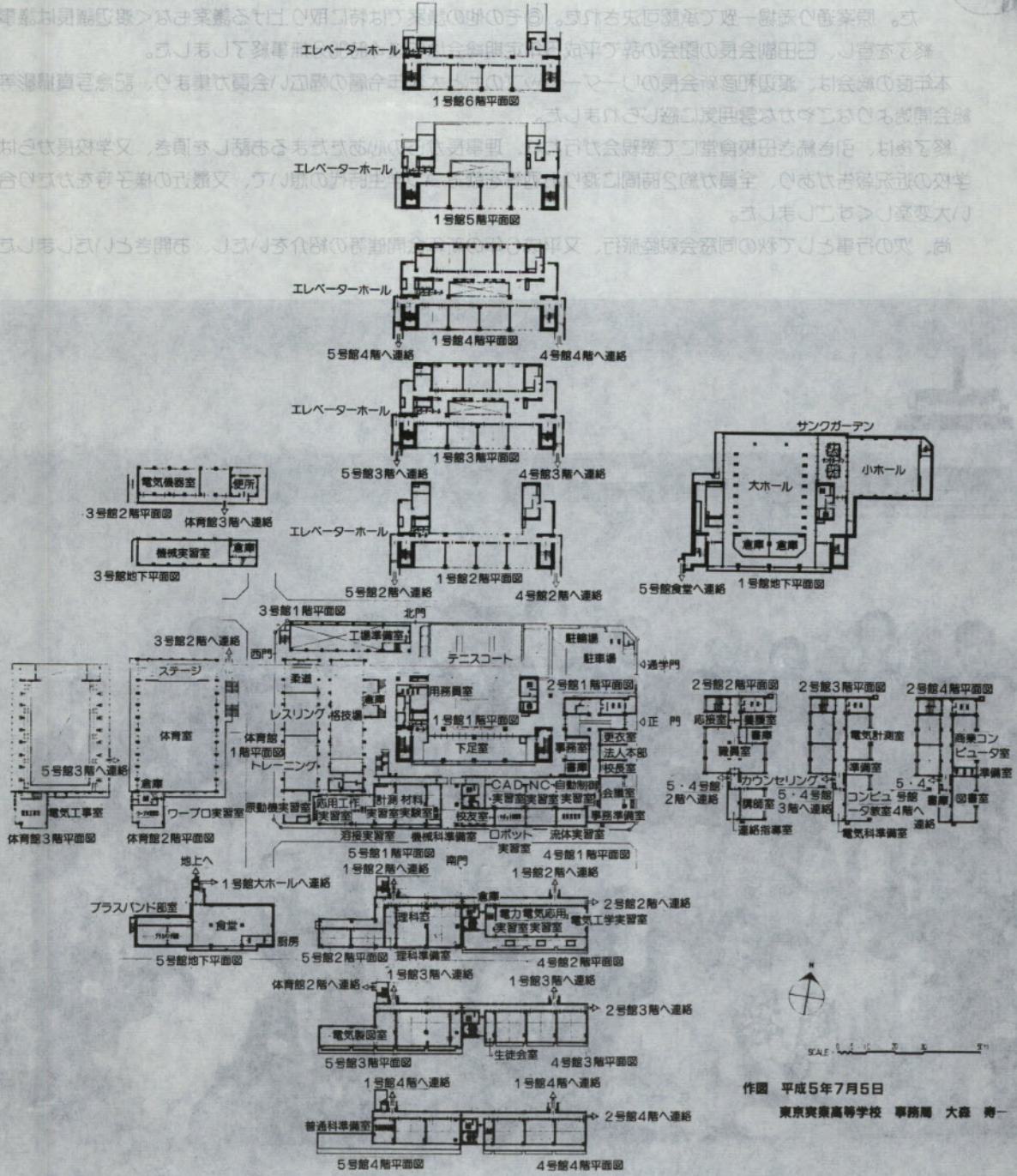
終了後は、引き続き田校食堂にて懇親会が行われ、理事長からの心あたたまるお話しを頂き、又学校長からは学校の近況報告があり、全員が約2時間に渡りお酒等を飲みつつ学生時代の想いで、又最近の様子等をかたり合ひ大変楽しくすごしました。

尚、次の行事として秋の同窓会親睦旅行、又平成6年の新年会開催等の紹介をいたし、お開きといたしました。



5年(1993)6月27日 於学校小ホール

教室案内図



ホール小実学城日 15月8 (1993)年

——新しいコーナーです……貴方も応募しませんか——

〈閑余会窓同〉

「フォトクイズ」

影元の変小父ち

(現在)

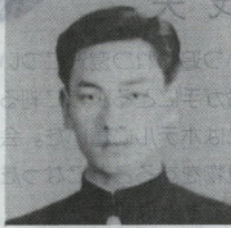
(卒業時)

A-16期 青木 茂夫

B-17期 村松 演代

1 ?

2 ?



C-19期 三橋 金久

D-22期 井上 實

3 ?

4 ?



E-29期 箕輪 弘数

F-29期 渡辺 正信

5 ?

6 ?



G-35期 高橋 洋太

H-36期 天野 昇

7 ?

8 ?



I-39期 黒田 芳彦

J-42期 白田 佳彦

9 ?

10 ?



このクイズは、卒業生10人を選んで学校卒業の時の顔写真と、現在の顔写真2枚があります。同人物の顔写真を当てていただくわけです。

例えば、A-1・G-3の様に右記回答紙に書きこんで、ハガキの裏に貼って事務局にお送り下さい。

当選者には薄品をお送りします。沢山の応募をお待ちします。

切……り……取……り……線

フォトクイズ回答(第5号)

A- <input type="checkbox"/>	B- <input type="checkbox"/>	C- <input type="checkbox"/>	D- <input type="checkbox"/>	E- <input type="checkbox"/>
F- <input type="checkbox"/>	G- <input type="checkbox"/>	H- <input type="checkbox"/>	I- <input type="checkbox"/>	J- <input type="checkbox"/>
卒業年月		T・S・H		年
住所		〒		
氏名				

《同窓会余聞》

湯沢駅の変な小父さん

(朝業卒)

第16期卒 青木 茂夫



我われのバスは台風13号と追いつ追われつ湯沢について。この決行には幹事さんの心労が手にとるように判る。台風との競争だから速い、16時にはホテルに着いた。会食までには時間があるので市内見物をする事になった。ホテルの連絡バスで湯沢駅に行ってあとは歩きだ。

私は一緒に歩きだしたが長い坂道になって帰りを思つて途中でバック、駅前でみんなを待つことにした。

「湯沢観光協会案内人」の腕章をつけた、やせた小柄な男と話し合うことになった。

その男は列車が着いたが降りる客は少なく、すぐにひまになる。この街はスキーの季節にならなければ活気がでない。駅前の商店は大体休業している。

彼を見てもなく見ていると所在なくタバコをやたらに吸っている。私も用は無い、なんとなく話し合うという次第だ。

よも山の話をしていううちに気になり出したことがある。それは、いつも私に左側を向けて、要するに横を向いて喋るので話しが聞きとれない、何度も聞き直すことになる。

彼は得意な話しになると悦に入ってニヤリと笑うそれは目尻のシワと口もとががすかに動くので判る。

そのうち彼は私の世界と全然違った歩みをしてきた人なんだなァーと思うようになった。

普通の人は一夫一婦の女房で通すが、彼は8人目の女を入籍して、それが今の女房だと言った。私は声がつまった。この男はどうしてそんなに女と縁があったんだ。私は考えてしまった。女たらしの話しは聞くが、どおしてなんだ。それほどの色男でもなさそうだし、自然に吾が身とくらべてしまう。「女そのものを不思議なもの」と思ってしまう。

「狭い土地だから別れた女と会うよ」「気まずくないか?」「もう他人だよ顔見たって知らん顔さ」だって、私はそんなもんカナーと、この男に興味をもった。

「女房は脚が悪く行かないが、あつちこつちの競輪へ連れて行つたよ」。私は聞いた。「東京方面もか」「関東一円から平塚・福島・新潟・仙台、と出るは、出るは、私には憶えきれない、関東から千葉・神奈川・東北としておこう、それに、平和島、戸田、多摩川、その他の競艇場と、私は横向きの彼から聞きだすのに大変だった。

私たちは大田区から同窓会で来たんだ、あと便を迎えにここで待っていると告げると、「蒲田に醍醐安之助がいたよね」とも言うし、駅前の焼栗を売つた男は仲間だと言う「関東ぢや食いばぐれなかったよ」そして、賭場の話しから壺の振り方で目が変わるなんて、私の別世界の話しとなり、これは本物のギャンブラーなんだなと変に感心をした。今でもその賭場はあるのかと聞くと、今はやがましくて大ぴらには無いと言う。私はこんな男が賭け勝負の世界にいたなんて考えられないが本当なんだらう。

こおなると質問が出来ない、その知識が皆無だ、ただ映画やTVでの知識しか無い。そして勝負の勝ち負けは決して人には喋らないと言う。

収支としてはまあ損をしたことは無いと言う。「どうするんだ」「こうするんだ」。あとは書くことを憚る。「なんでも表と裏はあるよ」私は「合点した」。

相変わらず横向きの姿勢である。私は正面から人体を見たくて位置を変えると彼も移動する。だから彼の面相は知らない。彼の修羅場からの身についた構えかとも推理するが?

一行が帰って来た。丁度理事長、校長とも到着した。そして彼も動き始め、挨拶も無しに別れた。

変な小父さんに会いたい人は、今も居ると思うから、直かに湯沢に行つて、もつと詳しく聞くとよい、私でもいいよ。

東京実業同窓会会員総数

平成6年4月 予定
() : 女子

会員総数		商業系	工業系	普通系
25,925 (2,614)		12,545 (2,612)	12,618 () 2	762
内	昼間部(同窓会) (大15~平5)69期	21,699 (2,382)	10,190 (2,382)	762
	夜間部(蛭窓会) (昭4~昭52)49回	3,586 () 228	2,223 () 228	1,363
訳	専門学校(五葉会) (昭35~昭48)14回	640 () 4	132 () 2	508 () 2

平成6年3月卒業予定数 649名
(商業系: 241 工業系(機械)190+〈電気〉92=282 普通系: 126)

卒業生出会シリーズ⑤

エンゼルとピエロ

早朝の太陽が斜めにフロントガラスに当たり、光りを散乱している。

そこに……ニユツと白い素足がサブシートから出てきて朝霧のウィンドーを親指で遊んでいる。もちろん若き女性の足である。

外車のクライな彼はクラウンのデラックスを愛車としている。

後席におさまった私は、目のやり場に困っていた。左側の亀甲状の壁面を見ては数えきれぬほどの数を勘定していた。

やがて午前8時千葉のとあるゴルフ場に着く。

他に仲間がいるのではと思った私は、フト考えた。今日一日中この若い女性（会社の従業員ではないな）と、この得意先の彼、すなわち社長のお付き合いゴルフか。これじゃスコアなどどうでもよいわい……。(私だって女性のゴルフ仲間の2人や3人はいるわい……と思ったが今日は我慢しとこう)。

数日が経って、その彼から電話があり、「今夜新橋駅前6時に来たまえ！」と一方的、お客様は神様とばかり社内会議中の私は、仕事や！とばかり従業員の不満気な声を後にした。

彼はだいぶ時間前に来ていたらしく、タバコをくわえていた。前日のゴルフのお礼を言う私であるが、彼はだまって烏森の方に歩きはじめていた。

まだ時間が早いめか、カウンターにも小さなボックスシートにも誰もいない。「ヤア〜」とばかり彼は気軽にそのママに手をあげ、カウンターに私をすすめた。

ポカーンとしている私に、彼は声を出さねど「ヤボなことはナシで行こう」とばかり目で答えた。そうだとこの前のゴルフの女性ではないか。粹な社長とは知っていたが、ここまで私を信用してくれるのかと思うと、「よし！この人のためならなんでもしてやろう！」と心に誓う私であった。

やがて商談にうつり、この和風バーの内装工事を受注した私は有頂天でんとばかり帰りつく。

この彼との出会いは？と問われれば、答えましょう。

前回（会報4号）に紹介済の東京高校の先輩（M氏）からの話しである。

日本鍍金協同組合の組合長をしていた彼と接触したとき、こまかい印刷関係の仕事があるが、誰か適当な人間

がないかとのこと、私がたまたま蒲田（六郷）に住んでいることで私を引き合わせたのである。（当時私は広告代理店＝浜松町駅前の事務所）

彼の会社はやがて京急蒲田駅前より、現在の西蒲田に引越をする時であり、初めに訪問した事務所はたて長の奥に社長席があり、気楽に応待され、新社屋の件で会社案内パンフレット等を作りたいということになった。

早速カメラマンを連れて、本社・藤沢営業所に飛び現場内外の撮影をし、プランニングに取りかかった。

その時のマーク及び会社名のロゴ（指定文字）は私の揮筆によるものである。

話しはかわり、2年経った頃である。故鷹野先生が、私宅に訪ずれ、我が田親と会い、「たまには同窓会に出てくれないか」とのことずてがあった。やがて一ヶ月後位にまた鷹野先生の同窓会案内状が送られてきた。

「行ってきなさい！」と田親に尻をたたかれんばかりに言われた私は、しかたなしに学校へと出かけた。

おそるおそる会議室に向いた私は、先輩ばかりが並んでいる一番奥のテーブルについた。正面には故山田千太郎会長がでんと座り、左右には副会長らしき人々がいた。

やがて鷹野先生の司会で各自の紹介が始まった。

会長につぎ副会長の顔を見たトタン驚きのあまり、息がとまった思いがした。なんとその人いわゆる彼が5級先輩であったことに私はシマツタと思った。(来るんじやなかった)。

なんとこの世の中は狭いもんだ。悪い事は出来ないもんだと、この時の出合いは誰にもわからないであろうが私には歴史的なものであった。

1年後二代目会長となった彼とは20年間、先・後輩を抜きに同窓会の仕事を続けた私である。

顧問となった彼ではあるが、今だにアドバイスを載いて会の運営にプラスになっている。

彼が同窓会に対して、ねばり強い精神はいまでも私達後輩にうえつけられている。

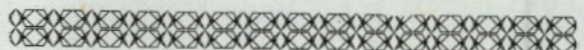
諸君よ、もう一度自分の身の廻りの人を見直してくれそこにはひよつとすると先輩が今でもエンゼルの姿をして待っているのではないかな？。ピエロになろうではないか。

おわり

彼……第17期卒 村松 演代

私……第22期卒 井上 實

(中略) (註: 2014年現在) 編集者: 大塚 誠司



◆磯子に生きる職人の技

「子供の時から異端児だったよ」



第22期卒 岩島 常男

中原2丁目に住む彼は、45年以上の経験を持つベテラン瓦師である。個性的な生き方で知られている彼の昔ながらの職人の世界の話の記事にしました。

(横浜市立図書館・磯子図書館より 編集・井上記)

Q今でもお仕事を？

A修繕の仕事は時々ね。梅雨から台風の時期は多いです。新しい家の仕事は私らの年では大手の仕事についていけないから……。若い人で継ぐ人もいっぱいいるけど、太手に吸収されちゃうね。終戦直後に瓦師になった我々のように昔の古い考え方はついていけないね。サラリーマンがいやでなった仕事なんだから。

Qおうちは蒲田だそうですがいっ横濱へ？

A戦争で焼けて、森（磯子区）に地所を買ってくれたから……。うちは酒屋だったんだけど、親が今という教育ママみたいなもので、兄弟みんな学校だけは出してもらってね。私だけ腕白でいたずらもんだから私立であとはみんな官立だった。まあ子供の時から異端児だったんだよね。他の者はみんなサラリーマンやっているけど、私だけだね、この稼業やっているのは。だけどね。今でいう通信簿は、工作“可”だよ。5点法の2だね。昔は手工っていったけどなんとしてもできなかったね。みせてあげようか。どれみても“可”や“丙”だね。操行も“丙”だよ。だけど学校は好きだったから休んだことはないね。良かったのは読み書きだね。やはりできるとおもしろいから……。いまだにそういうものが好きで、読むものが無い時は保険の約款だって読んでんだから。



岩島さんの通信簿（昭和12、13、16年）

Q始められた頃はどんな時代だったのでしょうか。

A米軍に接収されていて、その米軍のハウスも間に合わないんだから。建築の仕事に従事すれば、三度三度ごはんを食べて煙草ももらえる。それは仕事は忙しかった。なにしろ焼け跡で何にも無いんだから。でも、その時分、仕事がつらいなんて思っていない。兵隊から帰ったばかりで……。兵隊のほうがよっぽどつらいから。数えの18かな。

Qそれから数十年ですね。

Aここに住んで28年。ほんとうは自分の家は建ててあるんだけどそれは人に貸して、ここを借りて住んでる。庶民的で住みいいね。見ての通りの恰好で、ネクタイやワイシャツは着たことがないし。ともかく職人ってというのは、仕事があってその旦那にたいしての約束だとかをきちっとやってあげば、上司に気遣いだとか頭を下げるってことが無いから、あとは自由だし。

Q今まででこれぞというお仕事は？

Aこの先にある大きい家、あれは33~4才の時やったんだけどあの家なんか私が死ぬまで、いや死んでも平気だね。そういう仕事も職人が「華」っていわれる時代にやったもんで、いい材料を使っていい仕事をやれば万年でも持つよね。今みたいに、予算がない時間がないなんていう人じゃ、いい仕事ができるわけがない。

Q岩島さんの親方だった山橋与作さんは洋瓦葺きの名人だったそうですか。

A今の互はそんなことはないけど、昔の互は焼く技術そのものが悪かったわけだ。互一枚一枚人間の顔と一緒にくせがあるから、それを組み合わせながら賣っていく、それが技術っていうかね。乗っかってキュツキュツ音がしない。

Qこの辺でも互を焼いていたとが……。

A杉田の奥でね。今の妙法寺のとこ、向生病院の方へ入ったとこだって言うね。互の泥がとれる所は、成物はあんまりいいものができないよ。

Q永井龍男さんの随筆『冬遠からじ』（「身辺すぐろく」新潮社、所収）に岩島さんが登場されますね。

Aなぜ永井龍男さんと知り合ったかという久米正雄さんのところへ仕事についてそれで奥さん同志が姉妹だからね。そんなんで行き来があつてき。それで神奈川新聞の記事になったり三吉劇場の芝居にもなったんだよ。一風変わっているから。別に意識してやっているわけじゃないけど。

大きい屋敷にもいくし、長屋をなおしにもいくけど、例えば永井さんちに「こんにちは」と訪ねていくときはね、職人だから玄関の扉をあけるわけにいかないし、そうかって御用聞きじゃないんだからお勝手からいくこともない、いつも中庭からまわってお話しをしたよね。商人じゃないから……。まあ芸術家とも思っていない

けど。多少なりともその家に貢献しているという自負心を持っているからね。

Q それでは最後にお好きな本のこと、また最近面白かったものなどおしえていただけますか。

A 伝記が好きだね。ほとんど伝記ならみんな読む。でもやっぱり一番面白いのは、辞書だよ。ともかく画数で言うと33画の字がいつう最後かな、意味がわかんないから33画のところから見ていくと、勘でやるんだけど半分どころが一割も当らないね。歌も好きだから百人一首もいいね。それと恋歌がいい。柄にもないけど与謝野晶子もいいよ。……わずか三十一文字でね。たいしたものだよ。

● どうもありがとうございました。

—— 終り ——

子どもガーデンパーティー

母校の地域に育つ、こどもたち

大田区子どもガーデンパーティーは、「子どもの日」を記念して始められたものです。

現在、4月最後の日曜日に、区内8ヶ所の会場で開催しています。平成5年度は42回目が開催され、各会場とも盛大に行われました。

蒲田西地区に実施会場を、という声があり、青少年対策蒲田西地区委員会は、ガーデンパーティー開催に向けて、熱意ある願望が実り、小・中学校PTA、関係団体の協力を得て実行委員会を組織し、御園中学校と西蒲田公園を会場に、今年で5回を迎え「子ども達に楽しい1日」を合言葉に約4,800人の参加があり無事に終わりました。平成6年度はガーデンパーティーの実施に加えて、小学5・6年生を対象にジュニアリーダー講習会を開催する運びとなりました。

川名 重士



(川名)

御園中学校校庭で開会を待つ

在校生から

10年後の母校は……

謝開会スでぐ会五十実東

民重 普通科三年 吉松本 隆

今、東京実業高校の10年後を想像してみることは容易なことではない。しかし、ひとつ言えることは基本的にあまり変わっていない気がするということだ。むしろ私にとっては東京実業に変わってほしくない。

何十年後になっても母校は母校であって、そこに来ると、その頃のことが次々と思い出される。そういう学校であってほしい。必要なのは、この学校で勉強した教室や体育館などから、その時代の楽しかったことや苦しかったことを思い出せるということだ。

やはり、東京実業を卒業する時に、楽しい三年間だったと思いたい。今は東京実業に入学してよかったと思っている。

卒業してから、いつ東実に来て「あの時代に戻りたい」と思わせてくれるような学校であってほしい。10年後、そのような学校になっていることを望んでいる。

10年後の母校

普通科三年 小倉 啓介

私の母校、東京実業高校の10年後の姿、はたしてそれが、どうなっているのが見当がつかない。なぜならば、10年前の姿は全く違ってしまっていてしまったからだ。10年前は、今からは想像もできないようだったらしい。

しかし、その変化は「良い変化」である。実業学校の中に普通科が設立され、レベルも年々上がってきた。また実業科も設備が整っているように思われる。このように各々の学習の方面にも大きな変化があったようだ。そしてクラブ活動に関して、ブラスバンド部の全国大会出場をはじめ、レスリング部等々の部活もがんばっている。

このように10年間の〈変化〉は大変なものがある。しかも「良い変化」なのだ。だから、10年後の姿など見当もつかないが、「悪い変化」になるようなことはない。学校の伝統を守っていくことも、もちろん必要である。しかし、学校は時代の流れに沿って変化していかなくてはならない。良い方向へ向かい、変化していかなくてはならない。

クラス会だより

お母の会

東実十五会クラス会開催



創 第15期卒 吉行 重明

東実十五会は時和17年卒業以来満51年卒業から暫くの間を除き以後毎年クラス会を開催して旧交を温めている。今年も第31回目の会合を去る10月17日(日)に開催した。場所は都塵を離れしかもごく近くで自然豊かな箱根湯本店は須雲川添いの高台に建つ「南風荘」である。

当日は素晴らしい好天に恵まれ紅葉にはまだ少し早いが空はあくまで青く山の樹々は生き生きとして輝いている様に見える。当日は日曜日という事もあって湯本駅周辺は観光客でゴツタ返している。駅前からバスに揺られて南風荘につくホテルも良いあたりの景観もなかなかのものである。このホテルは同期の梁川元成君の定宿であり今回も同氏のお骨折りによる設営である。

会員も三三五五集って来る。総勢16名である。毎回もう少し多く参加しているのだが今日は日曜大安であり結婚式出席の為の不参加も何名かあり影響があったのかも知れない。でも皆元気一杯久し振りの会合で賑やかに話が弾む。今日はたまたまこのホテルで某大政党的の研修会があり著名な党首を始め有力幹部がゾクゾクと到着してくる。ホテルは今日も満杯のようだ。



そう言えば先程湯本駅で知人の有力区議にお会いし挨拶したばかりだ「南風荘の研修会に行く」と言っていたのを思い出す。

やがて理事長先生がお見えになる。しかし先生お1人である。校長先生がお見えにならないどうされたのか?

同えば校長先生は校務多忙の為ごむなくご欠席とのこと、残念!! しかしご多忙の中曲げて理事長先生がご出席下された事は大変名誉な事であり、心から感謝しなければならない。夜の宴会が始まった。

理事長先生から極めて丁寧行届いたご挨拶を頂き恐縮又学校の近況を伺い、益々発展している様子がよく理解出来て非常に嬉しかった。あとは例によって飲めや歌えの大騒ぎとなり予定時間を大幅に超過してしまった。

最後は全員起立して校歌の大合唱である、在校当時を思い、過ぎ去った50余年に思いを馳せながらの合唱毎回の事だが感激する。

翌朝は次回幹事を指名し、来年の再会を約して散会した。

(吉行・記)

歓迎東実第15回同窓会



クラス会だより



ひも式会スで

開(念)卒)念 実東

「方円会」開催

第16期卒 青木 茂夫

16期の「方円会」が平成5年6月19日、鶴見駅の西口「翠華楼」で4時から開かれた。

13名と理事長先生の出席を得て計14名となる。先生には当日、東京高校の同窓会総会に出席される前の多忙な時間で、5時退出に限られていた。

先生の出席により錦上花を添え、紅一点そのスピーチは学校の現況から展望と誠に堂に入ったもので、70才の悪老も静かに聞いていた。

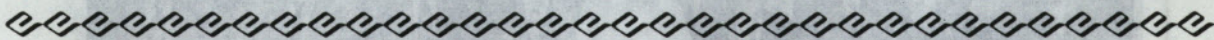
ひと通りのセレモニーから乾杯となる。あとはお決りの通りである。話しは、はずんでプレーキが効かない、延びに延びて4時間、8時過ぎにやっと終る。

2度目とはいえ、こんな長宴となり、お店にはここでお詫びをする。

卒業以来52年余、出席も少ないし、酒量も落ちた。定連でも凸凹はある。一堂に会する仲間は貴重人間だ。幹事としては嬉しいし有難たい。具合悪く来られない人は、残念ですが、次回は是非やり繰り出席願いたい。我々は減ることはあっても増えることはない。この会を大事にせねばと責任を感じる。

次回の集まりを決めて、お互いの健康をと、固い握手をして別れ難い別れをする。未筆ながら毎回お世話される山本さんに厚くお礼を申し上げる。

平成6年度は、同所で6月18日(土)4時を忘れずに予定して下さい。同窓生の堀り起しもお願いします。



クラス会だより

東実一八会(卒業50年記念)開催

東実17年12月繰上げ卒業以来、丁度50年の節目を迎えるの記念同期会を、9月18日(土)・横浜中華街大通り“華勝楼”で行いました。「人生50年」と申しますが、我々は東実を卒業して50年と言う長い年月を過ぎた事になりました。卒業時168名居た仲間も、現在80名、半分は集め様、と一年前から企画して進めて来ましたが、当日集つたのは33名、相変わらず現役で頑張っている方、毎日を趣味に生き甲斐を求めている者、様々ですが、至極

く元気な姿が集まりました。教えを頂いた先生お二人、英語の大中秀男先生、教官の三科六郎先生は御都合で欠席され、残念でした。青春が戦時中、そして戦後の我国躍進の原動力として活躍して来た我々ですが、未だ未だこれからです、今迄とは違った。より深い人生の集いを一八会に託して、益々元気で、と再会を楽しみに、快い一夜を過ごしました。

森 哲太郎 記



“にいにい会”旅行記 (第22期卒業同期会)

還暦も気付かぬうちに数年がたち、橋本駅前で集合した諸君、「道で会ってもわからないだろうな」と口々に言い合っている。

久しぶりに10月24・25日と一泊旅行を計画した。50名に案内したところ11名の参加をみた。

場所は津久井の城山町“おぐら荘”にてお互いの元気

な顔を見ては、47年前の話して夜を忘れてしまった。

初参加が2名いたが、懐かしさに感動し言葉にならぬものもいて、同窓の良さを再確認し、帰りのマイクロバスでも話題がきれることなく賑やかなうちに解散した。

貴殿、貴女たちよ同期会はいいものであるよ!!

(井上・記)



あゆみ業企卒高

第42期卒 大森 五男



卒業生の皆様、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

今回、東実同窓会編集委員会より原稿依頼があった。久々に自分の人生を振り返るチャンスに出会い、懐しさと、あの頃の若き熱い思いがまざまざとよみがえってきた。そこで原稿は私の学生生活から現在に至るまでの道をたどってみようと思う。

私は昭和37年、中学卒業後、集団就職で鹿児島県より上京し、大田区にある会社に入社した。私は会社に通いながら大田区教育委員会主催の製図教室で1年間技術を勉強していた。その時つくづく「最低技術高校は出ていなければいけない」と気が付き、翌年、会社の先輩が通っていたこの東京実業高校機械科定時制に入学することになった。ようするに、昼間びっちり働いて、夜、学校に通う夜間高校生活が始まったのだ。全日制と違い定時制は、ほとんどの人が社会人。年代もバラバラ、環境もさまざまという全日制には無いユニークさがある。ひとつ言えることは、皆「勉強したい」と思っている人が集まっていたことだ。仕事でへとへとに疲れている身体でPM5時半からPM8時半までの授業には厳しいものがあつた。仕事で時間に間に合わない人や、途中いねむりする人、全日制ではタブーとされていることでも、ここでは皆が暖い目で受け入れていた。どこか人情味ある雰囲気を感じさせている学校であつた。

私はそんな中放課後活動するバレー部に籍を置いていた。当時体育館が無かつた年のライトアップされた校庭での練習。冬の寒さが厳しい外気の中、ドロドロになった身体を凍るような水で洗い流して家路についたことが今、走馬燈のように思い出される。そんなことから翌年の体育館建立には喜びもひとしおだつたことは言うまでもない。また私は部活のほか学校行事にも積極的に参加していた。文化祭や、バレー大会などを通じて多くの仲間を知り、先生方とのコミュニケーションも人一倍深いものであつたと思う。特に当時、上野幸一校長の私に向けられた励ましのことばは何よりのものだつた。バレーを通して先輩、後輩、そして仲間、先生とのかかわりが学校行事にも活かされて、楽しくて仕方なかった。バレーが無ければ、もしかしたら寂しくて鹿児島に帰っていたのではないかと思う。

人とのコミュニケーションが私に素晴らしい学校生活を与えてくれた。

次に設計業界へ足を踏み込むことになってからのことをつづりたいと思う。

バレー部の先輩の紹介で高校2年の4月、設計会社に入社することになった。実は、当時3つ年を偽り工業高校機械科卒で入社。つまり高2の学校に通っている身分で入社してしまったのだ。このハンディーは大きく、実力の世界での戦いが始まることになった。私は持ち前の勝気さで背のびした仕事はかなりきついものだったが「仕事ができせん」は自分自身許すことができなかった。仕事は家に持ち帰り、先輩や知人、友人、学校の先生などにアドバイスを受けながらクリアする日々だつた。そのうち図面も書けるようになり、会社の仕事のほかに製図のアルバイトができるようになつた。そうこうしている中で東京実業高校を卒業した。

それから1年後、私は東京実業専門学校(定時制)に入学することになった。そのいきさつは、会社で責任を持たされる立場になつたことがきっかけだつた。より優れた技術向上を目指すには専門学校の知識と技術が必要だと思つた。その時東京実業高校主事だつた故井上稔氏(前東京実業高校校長)のアドバイスは入学を決めるほど大きいものであつた。専門学校時代の思い出と言えば十和田湖への旅が今でも忘れられない楽しい思い出となっている。

専門学校へ入学して1年後、今の家内と知り合い結婚。会社、学校、アルバイト、結婚生活と、超人的な日々を送っていた。がやはり、1日2~3時間の睡眠という生活は長くは続けられなかつた。残念であつたが1年半で学校生活は断念せざるをえなかつた。そこで私の学校生活にピリオドが打たれた。

仕事はそれから入社して15年程地道に続け、昭和52年を迎えた。私は仲間4~5人で独立し、小さな設計会社を設立した。設立から15年たった現在、我社はエンジニア150人かかえる設計会社へと発展することができた。

振り返ると転機転機で人とのコミュニケーションが大きく人生をふくらませてくれたように思う。このコミュニケーションを支えたものは、つまり私自身を支えてきたものは次のことだと思ふ。

思心……常に相手を思う

自信……常に自分に自信を持って行動する

前進……常に前進することを考える

以上の心になれるよう常に自己コントロールしていたと思う。私は私の会社の社訓にこの3つを取り入れている。この心はすべて今まで私を支えてくれた多くの人達

から教えていただいたことだと私は思っている。これからも今までと同じようにこの3つの心に常に戻れる自分でありたいと思っている。

東京実業高校には時々おじゃまして職員室で先生方のおしゃべりを楽しんでいたり。今後共学校の大きなご発展と校長上野毅氏のご健勝を心よりお祈り申し上げペンを置きたいと思う。

愛犬「蘭丸」

第29期卒 箕輪 弘数



今年は戌年ですので我が家の犬について書かせて頂きます。我が家でもやっと子供達が巣離れし、空虚な日々を送る毎日でしたが、昨年の7月に妻が横浜の某パートで、マルチーズ（原産地マルタ島・古代ギリシャ・ローマ時代の貴婦人達がペットとして飼われてきた犬だそうです）の生後2ヵ月位の牡犬を買って参りました。その時から家の中は騒然となりました。まづ名前を付けるに当り、三日三晩家族会議を開きヒロ・コロ・タロウ・ジロウ・チビ……等候補の名が出た挙句のなてには歴史好きの次男の一言で「蘭丸」にきました。

初めて犬を飼う我が家にとってまさに家族が一人増えた様なありさまでした。食事の時も「お座り」「お手」「待て」「伏せ」など言いながら犬の蘭丸にとっては迷惑この上ない食事でしたが、10月頃からの特訓で、けなげにこれ等の事と一緒に朝夕玄関でのお出迎え、すべてマスターしましたのには私も感服しました。

また、蘭丸は我が家に来た時には非常に臆病な犬でして、廊下から玄関のたたきの段差20cm位の所も降りられず、増して外に出すと一歩も歩けない状態でしたが、時（10月なかば頃）が解決してくれ、今では二階の階段も一気に昇って行く有様で危なくて、防護欄を取り付けている次第です。

11月のある日暖房をしている家は暖かい春のポカポカ陽気になっているせいか、前足を私の腕にからませ変な腰付きをしている蘭丸をみると、いつの間にかや成（性）長してしまったのだなあと複雑な心境で、おどろいている次第です。

私もあと一年数ヵ月後には定年、エネルギーが豊富な蘭丸の実践と行動を手本に、第二の人生を歩んで行こうと思う昨今である。

ああ!! 中高音企業人

第36期卒 天野 森 昇



昭和36年卒業以来、32年が経過したが、私達は高度経済成長社会の一翼を担い、一生懸命働いて来た。その間に、ニクソンショック、オイルショック、円高不況、そしてバブル経済破綻による平成不況と、色々な経済の乱高下に直面して今日迄至っている。

気がついて見ると私も含め、私達の同期の仲間達は、50才～51才の正に、中高音令の真只中にいる。それぞれが家庭を持ち子供を育て、企業人としては中間管理職として（もっと出世をしている人が沢山いるかもしれないが）会社の中核として頑張っているが、最近私達の年齢層に対して厳しい状況にある。

企業に於いては、平成不況の中での中高音令者に対しての退職勧奨、希望退職の募集、経験のない職場への配置換え等、人員の削減の恰好の餌食になっていて、連日のように、テレビ・新聞等のマスコミを賑わしている。

私自身も小さな会社を経営しているが、この不況の中で、私と同年令の余力のない社員に対して、声をかけたくなる時があり反省している。

会社発展と将来を信じて頑張ってきたが、その一時的な状況下での仕打ちに対して、恨らめしく思うが、努力が足りなかったと反省するかは当事者でなければ判らないが、とにかくも私達、年代の受難の時代であることは事実である。

日本経済は今後共、右肩上りの成長は望めないかもしれないが、一日も早く不況を脱して、各企業で長年頑張ってきた、私達年代層の人達を大事にしてくれる時代にしたいものである。



平成6年(第69期)3月 同窓会幹事名簿

平成5年度卒業生のクラス別同窓会幹事は下記のとおりです。

卒業後、住所等の変更がありましたら直ちにクラスの幹事、担任、学校同窓会事務局宛てにハガキ又は電話にてご連絡ください。クラス会、同窓会、名簿作成上大切な資料となりますので、ご協力をお願い致します。

◎連絡先：〒144 大田区西蒲田8-18-1 東京実業高校 同窓会事務局 ☎3732-4481 米田 宛

平成5年度卒業 同窓会幹事名簿

科・組	担任	人数	氏名	電	住 所	電 話
M・A	佐藤(卓)	45	内田 良治	241	横浜市旭区市沢町319	045-371-7746
			松野 英明	232	横浜市南区大岡5-41-15	045-741-2679
B	田中(保)	45	佐藤 章佳	230	横浜市鶴見区潮田町3-140-2 フオンダメントヤマカツ201	045-502-6102
			森山 勇	158	世田谷区玉堤1-13-1 ハイネス尾山台102	03-3701-9944
C	足田	51	炭谷 光司	211	川崎市中原区小杉御殿町1-895-4	044-722-0549
			秦野 憲治	210	川崎市川崎区藤崎東住宅3-2-2-510	044-299-2419
D	井上(昭)	49	鈴木 康夫	223	横浜市港北区綱島台14-18	045-531-1091
			三浦 龍一郎	144	大田区仲六郷1-57-6-505	03-3739-0883
		(190)				
E・A	小椋 椋	49	中 茎 智 裕	230	横浜市鶴見区佃野町31-28	045-581-4082
			三浦 優士	133	江戸川区上篠崎3-5-8	03-3698-8716
B	小牟田	43	加藤 健	226	横浜市緑区白山1-11-5	045-931-8451
			西尾 徹	143	大田区大森西1-17-12	03-3765-4767
		(92)				
C・A	原 田	46	大木 秀一	143	大田区大森東1-9-8	03-3766-0587
			梶山 篤	108	港区白金6-11-2	03-3447-4049
B	岩 田	52	座光寺 誠	136	江東区南砂2-3-7-323	03-3615-0679
			吉川 政穂	144	大田区仲六郷3-21-6-401	03-3734-1649
C	青 木	49	今野 貴徳	142	品川区小山6-14-4	03-3714-6366
			鈴木 友和	145	大田区上池台4-21-14-407	03-3727-8263
D	大 津	42	天野 真二郎	177	練馬区立野町7-2	03-3365-7777
			桜井 勉	140	品川区西大井6-1-15	03-5386-3939
E	志賀(由)	52	新井 孝行	144	大田区南六郷1-21-1-101	03-3738-1028
			中山 浩文	211	川崎市中原区新丸子東1-825	044-411-2296
		(241)				
O・A	細 井	43	田中 孝明	144	大田区南蒲田2-9-7	03-3734-8704
			平井 勝	141	品川区西品川2-24-2	03-3493-4876
B	小 野	40	鈴木 直也	164	中野区本町1-27-4	03-3372-8389
			寺山 芳尊	236	横浜市金沢区寺前1-13-12	045-781-3127
C	森 井	43	高木 俊太	144	大田区南蒲田3-8-25	03-3744-1198
			原田 光輝	116	荒川区荒川8-2-8	03-3801-3490
		(126)				
(計)	14組	649名				

☆この同窓会幹事名簿は、アルバム帳(住所録の頁)にはさみ込んでおいて下さい。

事務局だより

卒業生の皆様、益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。この会報も皆様のご援助とご協力により、第5号の発行となり、編集委員一同感謝しております。

「見やすく親しまれる会報」を目指して編集委員は、がんばっておりますので、今後共よろしく願います。

この欄は同窓会事務局よりのお知らせとお願い等を記載いたします。

事前に電話(03-3732-4481)を入れてから、ご来校下さい。平日9:00AM~4:00PM 土曜12:30PMまで。

代金:1冊:¥2,500

② 郵送希望される方

電話(上記①の番号)かリガキでお申込下さい。

代金は送料込で¥3,000ですので、小額小切手が、郵便為替で同封又は郵便外為でお送り下さい。

送金先:全国郵便局 東京6-56316 東京実業高校同窓

会宛 卒業年・科と氏名を必ず記入して下さい。

◎お知らせ

平成6年度の同窓会の三大大事は次の通りです。

① 定期総会 日程:平成6年6月下旬の土曜日
会場:未定 昨年は田校小ホール
総会後の懇親会費:未定(昨年は¥3,000)
尚本年は、役員改選の年であります。

② 懇親旅行 日程:平成6年9月上旬 1泊2日
行先:未定 (昨年は¥20,000)
参加費:未定 (交通費¥13,000)
昨年は、越後湯沢ヘサロンバスを貸切り道中カラオケ等で楽しみが倍増された。

③ 有志新年会 日時:平成7年1月28日(土) 1月最終土曜日 午後6時
会場:未定 昨年は川崎日航ホテル
会費:未定 昨年は¥10,000でした。

上記の行事は、卒業生(同窓会員)は誰でも参加出来ます。お友達を誘ってグループで、クラス会としてご参加下さい。詳細案内状は全員には発送出来ませんので、参加希望者はお申し出(連絡)下さい。

◎お願いとご連絡

(1) 会員名簿について

平成4年11月第四版「会員名簿」を発行いたしました。ご希望の方は下記の要領で、お願ひいたしますのでお申

① 学校に取りに来られる方

さい。田内(車) A.M.

(2) 終身会費の納入について

本会の活動をより活発にするために終身会費の納入にご協力下さい。納入された方には、同窓会報をお送りいたします。納入方法:全国郵便局 東京6-56316 東京実業高校・同窓会宛 金額:¥10,000

(3) 「同窓会報」原稿募集について

この会報は、卒業生の機関誌です。卒業生は誰でも何時でも投稿できます。適時に掲載いたします。

自営されている方は、本紙広告欄をご利用下さい。

東実同窓生同志 何らかの効果が期待できると思います。希望される方は、ご一報下さい。申込書を送付いたします。

(4) その他

① 事務局には、FAXが入っております。ご利用下さい。番号は、03-3732-4456

② 各期・各クラス会等の催事がありましたら、編集委員にご連絡下さい。会報に記事として載せますので、簡単な文と写真を送付して下さい。

③ 事務局よりの連絡・通知状が届いた際は期限内にお返事をお願いします。

④ 同窓会では、同窓会にご協力して下さる方を探しております。有志の方はご一報下さい。

⑤ 住所等の変更があった時は、クラスの幹事・同窓会事務局にも必ずご連絡下さい。

編集後記

会報も即ち第5号となり、読む会報から見る会報にと委員の総意で進めてみました。なかなかうまくゆきませ

ん。校長の原稿を読んでみて、これからの学校運営には厳しいものが感じとられ、同窓会員として今後何かと役に立つことはないかと会員一同考える時がきているのではな

なからうか? 政局も次から次へと暗い出来ごとの多いここ数年でありましたが、今年平成6年は明るい未来に希望をもって

皆さんと歩んで行こうではありませんか。

今後共諸氏の寄稿をお待ちしております。

- 編集委員長 井上 実 (22.3)
- 編集委員 青木 茂夫 (16.3)
- 本田位公子 (34.3)
- 高橋 洋太 (35.3)
- 川名 重士 (35.3)
- 細井 守英 (54.3)
- 米田 仁昌 (学校)

